

インフォメーション サーキュラー No.11

1972 年 4 月

内 容

I	第5回大会案内	1
II	第7回運営委員会報告	3
III	事務局からのお知らせ	4
	A 学会編単行本の申し込み	
	B 会費納入	
	C 事務局所在地の変更	
	D サーキュラーへ寄稿下さい	
IV	第7回国際海藻学会議(寄稿)	6

日本発生物学会

大阪市住吉区杉本町

大阪市立大学理学部生物学教室 (〒558)

- ◎ このサーキュラー№11には大会出席についての注意事項がのせられていますので、大会迄は保存下さい。
- ◎ 大会についての詳しい案内は大会委員会から大会講演要旨集として全会員に郵送されます。
- ◎ 学会編単行本“エイジング”の申し込み期日は厳守下さい。期日を過ぎてから申し込みされても、割引値でおとどけできないことがあります。

インスタント人工海水

アクアマリン

姉妹品 ◇ ポースアクアマリン(海水魚淡水魚同時飼育剤)アクアマリンM
(人口海水用添加液) アクマリンK (海藻育成液) 其の他

八洲薬品株式会社 水産事業部

大阪市西区京町堀1丁目145 TEL (441) 3036・3037・2191
3038・3039・1422

I 日本発生生物学会・第5回総会ならびに大会の御案内

第5回総会および大会を下期の要領で行なり準備をすすめております。できるだけ沢山の方々の御参加をいただき、この大会が有意義なものになるよう期待しています。なお、大会の運営方法や企画についてお気付きの点がございましたら準備委員までおよせただけましたら幸いです。

日本発生生物学会 第5回大会準備委員会

委員	古谷雅樹(代表者)	委員	天野実
同	飯野徹雄(会計担当)	同	江上信雄
同	金谷晴夫	同	関口晃一
同	林雄次郎(会計担当)	同	平本幸男
同	柳沢富雄		

1 大会日程

(前日)	8月28日(月)	DGD編集委員会, 運営委員会
(第1日)	8月29日(火)	一般講演, シンポジウム
(第2日)	8月30日(水)	一般講演, シンポジウム, 総会

2 会場

野口英世記念会館 (東京都新宿区大京町2-6)

電話: 03-357-0742

3 参加ならびに講演の申し込み

- a) 参加希望者は別紙添付の参加申込票に必要事項を記入の上、大会参加費1,500円を添えて、^{5月13}~~5月30~~日までに、東京都文京区本郷 東京大学理学部植物学教室、飯野徹雄(電話812-2111内線)へお申込み下さい。

送金には定額小為替を利用し、指定受取人の住所氏名は上記のとおりをお願いします。

b) 講演希望者には、5月上旬に講演要旨をお書きいただく所定の原稿用紙をお送りしますので、御記入の上、~~5月31日~~^{6月17日}までに必着するように、東京都文京区本郷 東京大学理学部植物学教室 古谷雅樹（電話812-2111 内線6453）へお送り下さい。原稿はそのまま写真印刷にいたしますので、図や表を記入できます。（このさい、文責は一切発表者になります。）

c) 大会準備委員会は、お送りいただいた講演要旨を検討して、シンポジウムへ御参加下さるようお願いすることもあるかと存じますが、その折にはよろしく御協力下さいますようお願い致します。

d) 限られた大会期間の中で、できるだけ十分な講演時間をとりたいと考えておりますので、講演は昨年度大会どおり1人1題とします（但し、共同研究のばあいは、この限りではありません。）

講演時間は討論を含めて1題20分の予定です。会場には35ミリ・スライド映写機を一台用意します。おのおのスライドには右記のような事項を記入して下さい。なお、同一のスライドを2度以上使用されるときは、御面倒でも必要な枚数をご準備下さい。

461 (スライド番号)
天
赤 崎 研
研 究
氏名
講演番号

4 講演要旨集は本年度から大会への参加の有無にかかわらず全会員にあらかじめ大会が開かれる前に配布致します（一インホーメーションサーキクル4610）

5 宿泊について

準備委員会としてはお世話いたしかねますので、お手数ながら各自で予約して下さい。

6 なお、本大会を開催するための予算は、発生物理学学会としてはほとんどありませんので、すべての費用は大会参加費、講演要旨集に掲載させる広告料および会場における展示料によってまかなうこととなります。したがって、もし協賛会を会員の方々から会計担当委員まで御紹介いただけましたら何よりの大会準備委員会にとりまして倅でございます。

II 第7回運営委員会報告

サーキュラー10でお知らせしたように、昨年8月の第4回総会で、和文誌の廃刊を含む会則変更が承認された。その結果、本学は設立以来の和欧誌別の会員種別をなくし、また会計年度も1月1日から始めることになった。このことは、予算上でも慎重に考慮しなければならない問題点も含んでおり、また欧文誌の国の内外への配路の拡大も当面必要な作業と考えられた。これらの点について、かねてより拡大事務局会議（会長・幹事長・欧文誌編集主幹・単行本編集委員長・幹事）で検討を重ねてきた。一方、任期がきた欧文誌編集委員の人選および単行本の取扱いについての問題等も残されていたので、上記諸点も含めて、去る2月26日京都において運営委員会を開き検討された。

1. 討議事項は次の通りであるが、未決定のものも含まれており、さらに検討した上で今夏に予定されている総会で報告されるので、ここでは簡単にふれておく。
 - i) 単行本の件：今後の計画・会員への割引と会計上の収支、著者への謝礼の件等。
 - ii) 1972年度予算
 - iii) 欧文誌の海外および国内研究機関へのPR：海外へのPRは原案が承認されたので、近く印刷の上実施されることになった。国際会議に出席されたり、海外へ出かけられる会員による協力をお願いしたいので、事務局へ御連絡下さい。
 - iv) 今年度の学会スケジュール：大会日程が確定され、また今年末に予定されている第3期会長および運営委員の選挙の施行に必要な手続および経費などについて。
 - v) 第2期欧文誌編集委員の選出：編集委員は、会則上主幹による選出と運営委員による選出があるが、ここでは一括して新たに選出された方々をお知らせしておく（一部再任）。なお、主幹には、ひきつづいて椋山正雄氏に御苦勞いただくことになった。

主 幹	梶 山 正 雄	(名大・臨海実験所)
委 員	天 野 実	(国立ガンセンター研究所)
	団 仁 子	(お茶大・理・生物)
	古 谷 雅 樹	(東大・理・植物)
	林 雄次郎	(東教大・理・動物)
	J. G. Nace	(ミシガン大)
	岡 田 節 人	(京大・理・生物物理)
	大 西 英 爾	(名大・理・生物)
	柳 島 直 彦	(大阪市大・理・生物)

— 以上 アルファベット順 —

Ⅲ 事務局からのお知らせとお願い

A 発生生物学会編・岩波書店刊行 — “エイジング”の予約申し込みについて

本学会編の第3回目の単行本“エイジング”が下記のような内容で、来る5月下旬に刊行されます。本学会会員に限り、割引値(1冊当り1,400円のところ(1,100円)で予約を受付けいたしますので、下記3の項をよく御覧の上お申し込み下さい。

1. 著者：江上信雄・山田正篤・柳田友道・岡田重文・川島昭一郎・鶴藤 丞，樋渡宏一・古谷雅樹・松沢大樹

2. 内 容

- 第Ⅰ部 生物のエイジングとは
- 第Ⅱ部 エイジングはどのように現われるか
 - 第1章 微生物のばあい
 - 第2章 高等植物のばあい
 - 第3章 原生動物のばあい
 - 第4章 培養哺乳細胞のばあい

第 5 章 多細胞動物のばあい

第 6 章 哺乳類組織のエイジング

第 7 章 無菌動物におけるエイジング

第 8 章 ホルモンとエイジング

第Ⅲ部 エイジングのしくみ

第 9 章 分子レベルからみたエイジングの仕組み

第 10 章 細胞・個体からみたエイジングの仕組み

第 11 章 個体・集団・進化からみた考え方

第Ⅳ部 ま と め

3. “エイジング”の予約申し込み要項

- a) 会員 1 人 1 冊に限る。同一振替用紙で三人以上の方が申し込まれる場合は必ず通信欄に申し込み会員名を記入すること。
- b) 同封振替用紙で 4 月末日迄に
- c) 発刊は 5 月下旬の予定だが、出来次第申し込者に直接郵送する。

B 会費の払い込みについて

1. 昨年度までの会費未納の方には同封した別紙で未納金額をお知らせいたしますので、できるだけ早く納入して下さい。
2. 同封赤色の振替用紙は、学会編単行本の予約のために用意した手数料受取人払いのものです。学会費納入にもの使いのばあいは、送金額の内わけを通信欄に御記入下さい。なお学会費納入だけお願いする場合には、手数料払込人負担の青色の振替用紙をおとどけておりますので、今回の赤色の用紙で今年度の学会費をおとどけ下されば御便利かと思えます。
3. 今年度から、和文誌が発刊され、全会員に季刊の欧文誌 DGD と大会要旨集をおとどけすることになっております。それにともない、会費は年額 3,500 円となりました。お間違いのないようお願い致します。この件についての詳細はサーキュラー 1610 を御

覧下さい。

C 学会事務局所在地の変更および幹事の追加

前のサーキュラーでもお知らせしましたように、今年から学会事務局を表紙に記入しましたように大阪市立大学へ移します。市大所属で、学会の幹事をして下さる方は、サーキュラー69でお知らせした神坂盛一郎（庶務担当）の他に、今春より会計担当として小谷穠一である。なお従来幹事をしてきた石崎宏矩（京大・理・動）および加藤憲一（大阪教育大・生）もしばらくは幹事役をつとめることになっている。

D サーキュラーへ寄稿下さい

会員の相互の交流のためいろいろな話題をおよせ下さい。学問上のことと、意見の交流を求める話題提供とか、トピックスの紹介、今回の巖佐氏のような国際会議のメモ等がありましょし、また研究室の紹介、個人のプロフィール等いろいろあるかと存じます。いままでの寄稿は、幹事からお願いしたものばかりで、原稿がよせられないのが残念です。よろしくお願い致します。

IV 第7回国際海藻学会議 (VIIth International Seaweed Symposium)

大阪大学・教養・生物 巖佐耕三

この国際会議は1952年に英国で第1回が行われて以来、3～4年毎にヨーロッパと北米の各地で行われてきた。もちろん、アジアでは、はじめて。冬期オリンピックの開催を半年あとにひかえた、46年8月8日から12日まで、札幌パークホテルを中心に行われた。

名称は「海藻 Seaweed」であるが、一般に受けとられる大型海藻のシンポジウムではなく、珪藻などの小型藻、さらに、淡水性の藻類をも含めた、「藻類シンポジウム」という性格のものとして企画運営された。歴史的にはいわゆる海藻学という学門分野は、分類学、分布学、形態解剖学、生態学などの高次な生物学に重点がおかれていた。この傾向

は最近ヨーロッパ、北米では、より軽くなり、生理学、生化学の比重が急速に高まってきている。

わが国では、この点では立ちおけているように、私は感じている。今回の札幌のシンポジウムは、この点からも日本の藻類学によい刺激を与えたと思う。日本の海藻研究は、北欧とともに、長い歴史と多数の研究者をもっていることは世界的に高い評価を得ている。これは、海国という地理的条件と大型海藻の食品への利用というユニークな生活様式にささえられていることは言うまでもない。このシンポジウムの会場の広い一室は、利用海藻の実物展示にあてられ、数メートルにも及ぶ多種のコンブやワカメなどが、海から収穫されたままの姿でパネルされていた。私たち日本人も驚いたくらいだから、外国からの参加者は大喜びでカメラを向けていた。またアサクサノリやコンブ栽培、加工などのパネルにも驚きの声をあげていたが、おみやげの「焼きのり」「コブ茶」「干しワカメ」などには当惑したのではなかったか、と思う。

8日は午後 Opening ceremony の後、2つの特別講演が行われた。微細藻類の保存株の管理と供給の中心である米、インディアナ大学の Dr. Starr がそれらのサービスの実態と苦労話をユーモラスに語り、一層の協力を要請した。もう一つはノールウェイ海藻研究所の Dr. Jensen が家畜に海藻を食べさせた実験を説明し、発育がよく、良質の食肉が得られたことを示し、海藻中の無機物質の効果を論じた。夜は日本学術会議の歓迎レセプションがあった。

9日は、北海道大学付属の海藻研究所見学の field trip。この研究所は言うまでもなく日本での海藻研究のメッカ。すぐれた研究を生みだしてきた基地の1つである。

10・11・12日の3日間は一般講演と2つの特別講演などが行われた。一般講演は次の4部に分かれ並行して行われた。

Section I. Distribution, Taxonomy & Morphology (46)

Section II. Ecology & Application (13)

Section III. Physiology & Cultivation (26)

Section IV. Chemistry, Biochemistry & Application (39)

(カッコ内は講演数、プログラムのものなので、当日の変更が考慮されていない)

これらのうち、発生に関係した論文は第I部と第III部に集中していたが、第II部にも少しみられた。私のような生理層には、専門的知識がないために第I部の大部分の講演は理

解が困難なこともあって、他の会場にいたので、紹介することができない。プログラムと要旨からみると、狭義の海藻、とくに紅藻、褐藻の生活史の再検討、生殖型の検討、それらからの類縁関係、分類体系を論じたものが多くあった。大森氏（岡山大）のコンブ目のものなど日本から、約10演題が含まれていた。

少し傾向は異なるが、市村氏（東大応微研）の淡水産接合藻（Closterium）の生殖と接合についての論文、Dr. Pirson（独ゲッチンゲン大）のアミミドロの美しい映画には強く印象づけられた。

第Ⅱ部の生態関係では、テングサ、アオサなどの胞子の成熟と放出が、生体リズムに支配されているのかどうかの検討、放出された胞子が固体に付着するメカニズムなどに重点がおかれていた。海洋汚染についても、カリフォルニア海岸での例を、大型褐藻の生長から論じた Dr. Widdowson の論文が出された。

第Ⅲ部は生理関係であるが、ここでも、独キール大の Dr. Schramm がアサクサノリ属を材料として油汚染が光合成能抑制に敏感に作用することを示した。カリフォルニア大の Dr. R. Lewin は海産珪藻 55 clone の内、完全な無機物質だけで培養可能なものは、半分以下の 23 であり、あとの 32 はコバラミン（ビタミン B₁₂）やチアミン（ビタミン B₁）を要求すると報告した。この他、生長物質、培養条件に関する論文が、アサクサノリ（3篇）、コンブなどについて読まれた。私たちの海産珪藻、Phaeodactylum の多形性と運動性のメカニズムについて発表した。

第Ⅳ部の化学・生化学部門には、いわゆる寒天物質に関する分析、コロイド学、生合成、化学構造などに関するものが多数発表された。10日の夕方行われたカナダのマックギル大の Dr. Yappe の寒天の化学構造についての特別講演は圧巻であった。長年月に亘って精力的に進めてきた研究をわかりやすい英語で論理的に説明した。寒天の研究は日本、と思いがちな私達に、改めて研究の進めかたの大切さを感じさせてくれた。

その他に、光合成に関するもの、石灰藻の石灰沈着に関するもの、各種の酵素活性、代謝に関するものなどが多く発表された。これらの中には、藻類だからこそ、論文になるのだ、と思えるものもあった。それ程、海藻の生理学、生化学は取扱いが困難で、多様性に富み、一言でいえば、おくらしているといえる。

8月12日午後、無事閉会。13日から16日までは、関西に移り、京都、志摩、名古屋などで会合とエクスカージョンが行われた。（1972.3.2 記）

小動物の全身切片作成と一般組織化学に!

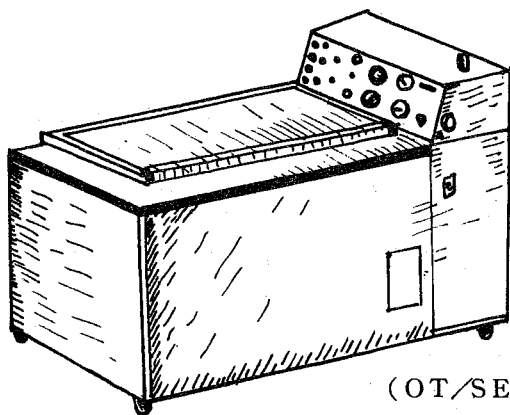
英国 アライツ社製

クリオスタット

OT/SEH (¥ 2,555,000.-)

OT/SEL (¥ 2,788,000.-)

OT/SEHT (¥ 3,850,000.-)



特長:

- 冷却範囲

OT/SEH $-5^{\circ}\sim-30^{\circ}\text{C}$

OT/SEL $-5^{\circ}\sim-40^{\circ}\text{C}$

- 切截厚 1~20ミクロン

- 最長230mmの対物切截能力

- 切截スピードの調節可能

- 西独ライツ大型滑走式

1300型マイクローム使用

- 外寸 約76巾×163長×98高cm

内寸 約46巾×86長×51高cm

重量 203kg

(OT/SEHTは220×270mmまで切截できます。)

日本総代理店 白井松器械(株)

大阪市東区元伊勢町537 TEL (06) 942-4181

理化学器械

注文に応じます

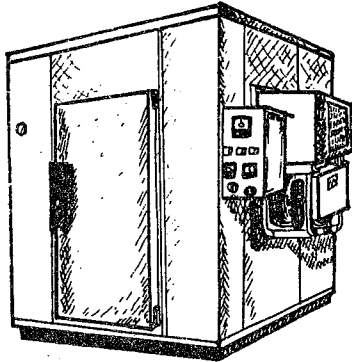
貴和理商会

守口市平代町50

TEL 992-6531~2

小動物・昆虫飼育・植物育成に

ご採用下さい



NK式プレハブ 低温恒温槽
" 恒温恒湿槽

特長

- 組立て、組替え、増設が自由出来る。
- 耐食アルミで何時までも大夫である。
- 調整器で槽内温度（湿度）の高精度が保たれる。

LP-IP型（1坪）、恒温槽+5℃～+45℃
¥ 595,000

他多種類あります。

NK式電気低温恒温器

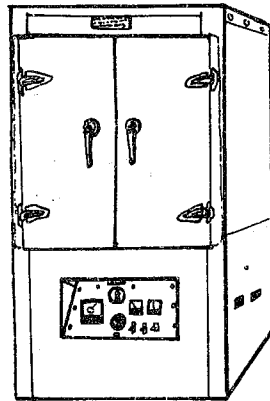
特長

- ミロックファンで温度分布が保たれる。
- 高い温度精度が得られる。
- 前面開閉二重窓で透視暗室の両方に使用出来る。

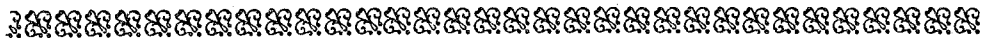
LP-150-5型 +5℃～+45℃

¥ 245,000

他多種類あります。



プログラム式恒温器、人工気象器、クリーンベンチ他各種実験器具あり、カタログご請求下さい。



株式会社 日本医化器械製作所

本社 大阪市西区靱本町2の80 TEL 06(443)-0712